



子供たちが教えてくれること

過日、子供たちの昼休みにあたる時間に、正門付近の除草作業をしていると1、2、3年生の数人がやってきて「お手伝いします」と、掃いたり熊手で草をかき集めたりしてくれました。除草の他、北風で吹きだまる砂を片付けようと、荷台に半分くらい砂を載せた一輪車に、シャベルで砂を積んでくれる3年生もいました。私も一応、30年の教員経験があるので、この後の展開を薄々予想していました。ある子が、一輪車を動かしたくてハンドルを握り持ち上げたところ、バランスを崩し右側に倒れ載せた砂が約1/3こぼれました。どうにか一輪車を起こしたところ、次の子が「私は大丈夫」とハンドルを握り持ち上げたところ、既に右に偏っている砂でバランスを崩し、砂が「ザー。」また1/3こぼれました。すると更にチャレンジャーが現れ、ハンドルを握り持ち上げたところ、3回目の「ザー。」荷台の砂もかなり少なくなりました。

日頃から、「子供は失敗するもの」、「何でもチャレンジさせよう」、「ことばに配慮しよう」と先生方に伝えている立場としてどんな声をかけようかと悩み、かけた言葉は、「校長先生の仕事増えちゃったな」でした。

言葉をかけるにあたり、子供たちの様子を見守っていたら、こぼしてしまった子は、「しまった」「悪いことしたな」と感じたらしく、すぐにこぼれた砂を拾い荷台に戻しはじめ、他の子も手伝って荷台に砂を戻す姿を3回見たら、さすがにネガティブな言葉はかけられません。1回目こぼれた時に「何してんの(´ε´)」なんて否定的なことを言ったら、2回目、3回目とチャレンジする子も現れなかったかもしれなし、私が砂を載せ始めたら、みんなで協力して砂を載せる姿も見られなかったかもしれません。

最近、諸外国のスポーツ指導者から、「日本の監督やコーチは教えすぎる」と言われています。私が児童、生徒、学生時代の頃の授業も、「チョーク&トーク」(先生がしゃべり、板書するだけ)が当たり前でした。

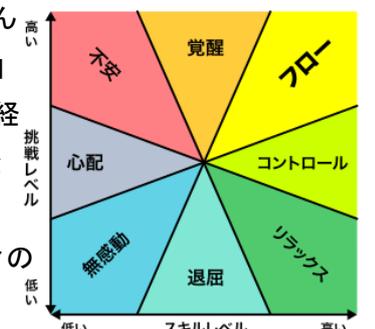
でも今は、「主体的・対話的で深い学び」という、自分の考えを友達の考えと比較したり、協力して問題解決したりすることでより理解度を深め、学習内容の理解はもちろん、学ぶことの面白さや自ら学ぼうとする力を身に付けることができるとされ、本校でも徐々に取り組んでいるところです。

また今週、5、6年生の音楽の授業に、小久保先生のお知り合いをお招きし、ゲストティーチャーとして弦楽器の演奏をしていただきました。私も素敵な音色を聴かせていただきましたが、新型コロナウイルス対策により芸術鑑賞もままならい昨今、子供たちは真剣なまなざしと物音一つ立てずに聴き入っていました。微動だにしない子供たちの姿を見て、昔学んだ「フロー」と言う言葉を思い出しました。



「フロー」とは、人間が物事に取り組んでいる時、そのことに完全に没入のめり込んでいる精神状態を言い、スポーツでは「ゾーン」と呼んでいます。「何が起きるのかな」「どんな曲なんだろう」「すごい迫力」など、新規なものに対する興味・関心、今まで経験のない音色等、知的好奇心がかき立てられどんどん演奏に吸い込まれていったのだと思います。逆に、つまらなければ右の図の退屈や無感動になってしまいます。

子供たちの学習環境や生活環境は、とても大切であることを改めて感じ、授業や日々の声かけ等、子供の立場で考え行っていきたいと思っています。



避難訓練（引き渡し訓練）～天災は忘れた頃にやってくる～

5月20日（木）に避難訓練（引き渡し訓練）が行われました。今回は震度5強を想定しての避難を行いました。また、コロナ禍での避難という視点も取り入れながら行いました。当日は、小雨にも関わらず、保護者の皆様のご協力により、スムーズな引き渡しになりました。ご協力ありがとうございました。



机の下に頭を隠して避難しました。



急いで避難しています



無事に全員避難しました

5・6年田植え体験 ～お米のありがたみを感じ、米粒一つも残さないようにしよう～



指導者は地域の方です



初めての体験にドキドキ



丁寧に植えました



みんな夢中です

5月28日（金）に5・6年生が田植え体験を行いました。地域の方の田んぼを「いちぼん農園」として貸し出してくださっています。初めての田植え体験の子もいたようで、わくわくドキドキしながらすすめていました。普段ではできない貴重な体験をさせていただきました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

6年陸上フェスティバル ～練習の成果を発揮し、自己ベストを目指しました～

6月3日（木）に6年陸上フェスティバルが行われました。天候にも恵まれ、よいコンディションの中、競技をすることができました。体育の時間や放課後の練習の成果を発揮しようとする子どもも一生懸命にがんばっていました。優勝した子やチームもありました。また、多くの子が自己ベストを出すことができました。



ハードルを越えて



全力疾走



バトンパスもばっちり



仲良くハイポーズ！

裏面もあります